



# あさひ野

あさひ野小学校だより  
令和元年10月23日  
第7号

〈育てたい子供像〉 夢いっぱいの子 知恵いっぱいの子 思いやりいっぱいの子

## ふるさとに誇りと愛情をもつ「未来の創り手」に

校長 水島 祐司

週末ごとに天候が崩れてはいるものの、本来、秋は気候が安定し子供たちの学習や諸活動を進めるにはもっともよい季節です。本校では先週17日に、さわやかな好天の下、秋の遠足に行ってきました。

秋の訪れとともに校区内の各地区においては、体育大会やお祭り、文化祭等の行事が行われており、本校の子供たちも自分の地区の行事に参加しています。このように10月は、季節や暮らしに変化を感じ、自分の地域やふるさとに思いをはせる時期でもあります。



やまざき美術作品展2019の様子

来年度から全面実施となる新学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」や「地域とともにある学校」が重要なキーワードとして出てきます。

富山県教育振興基本計画では、基本理念を「ふるさと富山に誇りと愛着を持ち、地域社会や全国、世界で活躍し未来を切り拓く人材の育成」としています。これを受け、朝日町教育委員会重点施策でも、本校の学校運営の方針でも「ふるさと学習」を教育活動の柱に掲げています。

「ふるさと学習」では、子供たちが単に、ふるさとを「知る」だけでなく、そこに生きる人々の「思い」に触れることで、より深くふるさとを学び、自分の生き方を考えることをねらいとしています。この「ふるさと学習」を考えるたびに頭に思い浮かぶ歌詞があります。文部省唱歌「故郷（ふるさと）」の三番にある「志を果たして いつの日にか帰らん」です。みんながみんな故郷を離れては困るのですが、ふるさとへの誇りを胸に、世界へ羽ばたく人材を育成することも教育に関わる者の役割だと思っています。

子供たちが、ふるさとに誇りと愛情をもち「未来の創り手」として地域に貢献できる人になるためには、家庭・地域と学校が、同じ願いをもって子供たちに関わる必要があります。子供たちを家庭・地域の大切な一員として、その存在をしっかりと認め、役割を与えること。さらには、身近な大人として、地域の一員として、生き方（思い）を伝えていただければと思います。そうすることが、子供たちに、ふるさとに誇りと愛情をもち「未来の創り手」となるための道しるべを示すことになると思います。